ごあいさつ

代表取締役　社長執行役員
山岸孝行

太陽系の外周で冥王星より大きな天体が発見されたという知らせがあったのがちょうど一年前の昨年8月でした。太陽系10番目の惑星になるかと期待していたのですが、以来あまり話題になっておりませんでした。ところが、一年経った今年の8月になりましたら、この天体を惑星と認めようという動きが出てくると同時に太陽系の惑星は12個にしようとか、8個にすべきだということが国際天文学連合という会議で議論され、その結果、太陽系惑星は冥王星を外し8個ということで決着したことが大きな話題となりました。

「太陽系惑星の定義」の解釈で惑星の数もいくつかということになるようですが、9個の惑星が8個になろうが、12個になろうが、水が存在し、生命が息づいている美しい惑星は、私たちが住む地球が唯一のものです。

環境問題を考えるとき、私は、夜空に瞬く何十億、何百億とある星の中で、多くの生命を育んでいると認められる唯一の星・地球、宇宙の中でも稀な美しい星・地球、人類が地球上にある限り、この地球を守り抜くのがこの地球上で知識と知恵を授けられた私たちに課せられた大きな責務であるとの思いを強く持ちます。前報告書でも述べましたが、ミネベアはいち早く環境保全活動を経営の重要課題とし、企業活動により生ずる環境への負荷を最小限にすべく取り組んできております。同時に地球環境問題に取り組む組織をつくり、しっかりしたビジョンを持った基本方針を掲げ、国を問わず同じレベルで活動を行っております。

継続は力と言われます。環境保全活動は短期間で成果が目に見えるものではありません。それだけに息の長い継続的な取り組みを企業として重要視してまいります。同時にお客様、協力会社様、更には地域社会の皆様と共に、ミネベアグループをあげてきめ細かく組織化した活動を行ってまいります。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

2006年8月

代表取締役　社長執行役員
山岸 孝行

取締役　専務執行役員
環境管理担当　水上龍介

ホモサピエンスは、15万年前に地球上にその姿を現し、その生存を脅かす飢餓、病気、毒物などを克服してきました。また、本能に導かれた「生きる」戦いを通じて健康・安全の多くの知識を得、それを次の世代に、さらに、次の世代へと伝えてまいりました。

人類は、成熟社会に向かえば向かうほど、自分たちの住む環境をより快適に、また、自分たちの健康・安全性をより強く希求するものです。この願いはいつの時代でも人類の究極の姿であり、その歩みの中で連綿として受け継がれています。

18世紀に始まった産業革命は、機械産業だけでなく化学産業の勃興をも促し、多くの化学物質が誕生しました。私たち現代人は、その化学物質のおかげで医療や工業分野でさまざまな恩恵をこうむってきましたが、その反面、化学物質は自然の生態系や人の健康に影響を及ぼし人類を脅かす新たな要素になってきました。現在、多くの人々がこの事実を認識し、次世代にその問題を引き継がないようにさまざまな施策がとられています。

ひとつは、2006年7月1日にEU域内で人類の健康・安全の確保を基本ポリシーとして施行されたRoHS指令のように、法のもとで、また一方では、人々の倫理性に訴え有害物質の使用制限を実施し、人類の健康・安全性を確保していこうとしています。

このようにホモサピエンス社会が、持続性のある安全な社会に向かうことが現代の産業革命ということでしょう。

ミネベアはこのRoHS指令を人類の健康・安全を包含した地球環境保全のための警鐘と受け止め、多くの企業のご協力をいただき2006年3月にその対応を完了しました。ミネベアは環境の破壊者にはならないとの強い信念を基本姿勢として、多くの方々の信頼に応える企業になりたいと願っています。皆様の更なるご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2006年8月

取締役　専務執行役員
環境管理担当
水上 龍介